

本文

【白文】

①夫差志レ復レ讎、朝夕臥ニ薪中ニ、出入使ニ人呼ニ曰、「夫差、而忘ニ越人之殺ニ而父ニ邪。」
……
越王勾踐反レ国、②懸ニ胆於坐臥ニ、即仰レ胆嘗レ之曰、「女忘ニ会稽之恥ニ邪。」

【書き下し文】

夫差讎（あだ）を復（ふく）せんと志（こころざ）し、朝夕（ちょうせき）薪（たきぎ）の中（うち）に臥（ふ）し、出入（しゅつにゆう）に人をして呼ばしめて曰（い）はく、「夫差、而（なんぢ）越人（えつひと）の而（なんぢ）の父を殺ししを忘れたるか。」と。

……

越王（えつわう）勾踐（こうせん）国（くに）に反（かへ）り、胆（きも）を坐臥（ざが）に懸（か）け、即（すなは）ち胆を仰（あふ）ぎて之（これ）を嘗（な）めて曰はく、「女（なんぢ）会稽（くわいけい）の恥（はぢ）を忘れたるか。」と。

(注) 夫差…呉の王。父の闔閭(こうりょ)が越との戦いで負傷して死んだ。／讎…かたき。あだ。／薪…たきぎ。／而…「なんぢ」と読み、お前、の意(汝に同じ)。／勾踐…越の王。／会稽の恥…勾踐が会稽山で夫差に敗れて降伏した屈辱。／坐臥…座る所と寝る所。ふだんいる場所。／嘗…なめる。

設問

- 傍線部①「夫差志復讎」を書き下し文に改めよ。
- 「臥薪」とは、誰がどのような行動をとったことを指すか。簡潔に説明せよ。
- 「臥薪」と「嘗胆」は、それぞれ呉・越のどちらの王の行動か。組み合わせとして正しいものを選び。
 - ア 臥薪=越王勾踐／嘗胆=呉王夫差
 - イ 臥薪=呉王夫差／嘗胆=越王勾踐
 - ウ 臥薪=呉王夫差／嘗胆=呉王夫差
 - エ 臥薪=越王勾踐／嘗胆=越王勾踐
- 「使人呼曰」の「使」の意味・働きを答えよ。また、ここでの読み方(送り仮名を含む)を示せ。
- 夫差が家来に言わせた言葉「夫差、而忘越人之殺而父邪。」を現代語訳せよ。
- 本文中の「而」(「而忘越人之殺而父邪」の二つの「而」)は、それぞれどのような意味・読みか。
 - (1) 一つ目の「而」
 - (2) 二つ目の「而」
- 「越人之殺而父」とあるが、夫差の父とは誰か、その名を答えよ。
- 傍線部②「懸胆於坐臥」を書き下し文に改めよ。
- 勾踐が自らに言い聞かせた言葉「女忘会稽之恥邪。」を現代語訳せよ。
- 「会稽之恥」とは、具体的にどのような出来事を指すか。説明せよ。
- 夫差が「薪の中に臥し」たのは何のためか。本文に即して答えよ。
- 「嘗胆」とは、誰がどのような行動をとったことを指すか。簡潔に説明せよ。
- 勾踐が胆を嘗めたのはなぜか。本文に即して説明せよ。
- 本文中の「邪」(「忘……邪」)は、ここではどのような意味・働きか。最も適切なものを次から選べ。
 - ア 疑問・反語を表す助字
 - イ 比較を表す助字
 - ウ 断定を表す助字
 - エ 仮定を表す助字
- 次の語の本文中での意味を答えよ。
 - (1) 朝夕
 - (2) 坐臥
- 夫差と勾踐に共通する心情・態度はどのようなものか。両者をふまえて説明せよ。

17. 故事成語「臥薪嘗胆」の意味として最も適切なものを次から選べ。

- ア 仲の悪い者どうしが同じ場所にいること
- イ 目的を達成するために、長い間苦難に耐えて努力すること
- ウ わずかな違いで大勢が決まること
- エ 取るに足りない、つまらない争いのこと

18. 「臥薪嘗胆」を用いた短文を一つ作れ。

19. この故事が記されている歴史書で、本問の出典となっている書物の名を答えよ。

20. 「臥薪嘗胆」と最も意味が近い四字熟語・故事成語を、次から一つ選べ。

- ア 呉越同舟
- イ 切齒扼腕
- ウ 捲土重来
- エ 螢雪之功

21. 夫差と勾踐の故事から、私たちはどのような教訓を学ぶことができるか。あなたの考えを一文で述べよ。